

令和元年度第3回長浜市公共施設マネジメント推進委員会 会議要点録

- 1 日 時 令和2年1月23日（木） 15：00～16：20
- 2 場 所 長浜市役所本庁5階 5－B会議室
- 3 出席者 ○委員（6人）
石井委員長、岡井副委員長、北川委員、平井委員、森川委員、石田委員
○事務局（6人）
公共施設マネジメント課：元村課長、林担当課長、田中課長代理、
松井主幹、田中主査、勝木主事
○オブザーバー（1人）
山岡歴史遺産課長
- 4 欠席者 片山委員、長谷委員、山中委員、金森委員、
- 5 傍聴者 なし
- 6 開 会
- ・元村課長から挨拶
 - ・委員異動の紹介
 - ・定足数の確認
 - ・会議公開の確認
 - ・資料の確認

7 議 題

長浜市公共施設等総合管理計画及び個別施設計画の改定案（最終案）について

- ・資料3、資料4、資料5、資料7に基づき、事務局から説明

【質疑・意見など】

（委員）

- ・ 前回会議での意見等を反映した上でパブコメを実施し、提出のあった意見について対応したとの説明であった。改めて両計画の全体について確認いただき、質問や意見をお願いしたい。
- ・ 資料5の令和6年度の数値目標について、総合管理計画では64.3万㎡（表3）とあり、個別施設計画では約62.2万㎡（表4）となっているが、これは、総合管理計画での削減面積と比べて個別施設計画では更に面積を削減するということか。数値が異なることについて気になる人がいるかもしれない。

- ＞ お尋ねのとおり、個別施設計画の削減面積（数値目標）は総合管理計画の削減面積（数値目標）を超える設定となっている。表３に記載している令和６年度の延床面積６４．３万㎡は数値目標としての数値になる。計画の見直し時点の延床面積としては、表３及び表４ともに６６．４万㎡と一致している。
- ・ 表３のＲ１推計結果の列の令和６年度延床面積は記載がないが、ここに６２．２万㎡を記載できないのか。
- ＞ Ｒ１推計結果の列は、今回の計画見直しで算出した数値を記載しており、令和６年度の推計値は算出していないため、そのようにしている。

（委員）

- ・ 本年度改定される予定の地方創生の人口ビジョンでは、人口が下方修正されるため、財政計画との乖離が生じるのではないかと考える。地方創生の流れの中で言うと、この計画自体には、公共施設をこれ以上増やしていくというのは現実的に不可能であることから、選択と集中によってフィルターを掛けながら進めていくという意味があったと思う。今後３５年間という長期的には人口が減少していく状況なので、国では広域的な取組をしていかないと難しいと考えられている。合併をするというよりは、スケールメリットを活かすような仕組みづくりが必要であると考えます。総合管理計画の第６「計画の推進にあたって」に「全庁的な取組体制の構築と人材育成」とあるが、次の時代のことを考えると、運営管理を含めて広域連携によるスケールメリットを活かしていくというような流れが出てくると思う。庁内でそのような議論がなされていないのであれば、今回の改定案の内容はこれでよいのかもしれないが、整合がとれているのかお尋ねしたい。
- ＞ 本年度に見直した財政計画では、人口推計等を加味しており、これに基づいたデータ等を活用して総合管理計画での推計を行っている。広域的な連携については、一部事務組合や近隣市町との連携など、その必要性については認識しているが、現時点では具体的に進んでいない状況である。今後、そのような視点が必要になると考えているところである。

（委員）

- ・ 現実的には広域と言えば米原市なのか。

（委員）

- ・ 恐らくもっと広域な範囲で、国では基本的に人口３０万人圏域を想定しているのではないと思う。具体的には進んでいないとのことであるが、「全庁的な取組体制の構築と人材育成」に今後、広域連携について展望していく旨を触れておく必要があるのではないかと。今後、国の地方財政措置もそのような視点をもって検討されていくのではないと思う。また、文化施設など指定管理者という制度もあるが、この制度自体も広域的にやらないと厳しいと思う。
- ・ 長浜市の目標人口は８万６千人であったか。
- ＞ ８万人台であるということを聞いている。
- ・ ５年前の１０万人という目標人口が８万人台という設定に変えなければいけないという現実が迫ってきている。

(委員)

- ・ 今回の計画見直しでは、人口や財政の計画は最新のものに更新しているという理解でよいか。
- ＞ そうである。総合管理計画及び個別施設計画については、上位計画である行革大綱に則した内容となっているが、広域連携については具体的には決まっていない状況なので、公共施設として記載できる段階ではないのではないかと危惧している。

(委員)

- ・ 行革大綱はいつできるのか。
- ＞ 行革大綱に紐づいている各計画が本年度に改定されるので、次年度に改定される予定である。
- ・ 上位計画が後に見直されるということなので、調整が難しい。広域連携については、他の計画との整合を図りながら検討いただければと思う。

(委員)

- ・ 個別施設計画 5 ページの「質の向上」という言葉がピンとこない。文章の内容からすると、「複合化・多機能化」の方が分かりやすいのではないかと考える。意見として受け取っていただければと思う。
- ・ 個別施設計画 2 3 ページの現状と課題で高月図書館について「築 4 0 年を目安に大規模改修又は建替えが必要です。」と記載されているが、2 4 ページの表の下には「移転又は改築を検討します。」と記載されている。記載内容を統一した方がよいのではないかと考える。意見としてお伝えするが、2 3 ページには更に、「人口や施設の分布をみて、位置を検討する必要があります。」と記載されているが、現状で多くの方が利用されているので、(移転ではなく) 改築の方がよいのではないかと考える。
- ＞ 現地改修・現地建替えだけでなく、その位置を検討する必要があるという 2 3 ページに記載している現状と課題を認識した上で、2 4 ページの今後の方向性には移転又は改築を検討すると記載している。

(委員)

- ・ 建替えのことを含めて改築としているのか。

(委員)

- ・ そうであると思う。現状と課題では「大規模改修が必要です。」で留めておけばよいのではないかと。今後の方向性で「移転」という言葉が先にくるので印象が強い。「改築又は移転を検討します。」ではないかと。言葉の整理としては、現状のままではだめなので手を入れなければいけないというのが課題で、今後の方向性では建替え又は移転を検討していくということかと思う。

(委員)

- ・ 実際は記載のとおり移転か改築を検討するということか。
- ＞ 移転又は改築を検討するということで、現地建替えか移転するかはまだ決定していないので、そういったところを検討していくということである。

(委員)

- ・ 大規模改修はしないのか。

(委員)

- ・ 以前の台風被害を受けて長期間に及ぶ補修をされていた。

(委員)

- ・ 今ほどの意見について、言葉的には合っていないかもしれないが、論理的に合っているかどうかを確認する必要がある。

(委員)

- ・ 建替えと改築は全然違うと思う。

(委員)

- ・ 「移転」と記載されていると、地元の人は関心を抱くかもしれない。土地は市の土地なのか。

> 市の土地である。

(委員)

- ・ 現状と課題は記載のまま置いておいたとして、市としては大規模改修ではなくて移転又は改築をしていくという方針を出したということなので、おかしくはないと思う。

(委員)

- ・ おかしくはないが、先に「移転」という言葉がくるのでイメージ的には移転が前提ととれてしまうのではないかと思う。

(委員)

- ・ 言葉の順序を入れ替えて「改築又は移転」にした方がよいのかもしれない。

(委員)

- ・ 言葉としては並列なので同じだが、イメージ的に踏み込みすぎているということかと思う。

(委員)

- ・ 意思としては移転を考えたいということかと思う。

(委員)

- ・ にしあざい診療所の事例もあるので、支所の適正配置の中で考えておられるのかと思う。そういうことであれば、記載しておかないといけない。

(委員)

- ・ 記載の仕方については、事務局で検討いただければと思う。

> 検討させていただく。

(委員)

- ・ 個別施設計画 27 ページの現状と課題では「七りん館や糸姫の館は『茅屋根』…」と記載されているが、『茅葺屋根』ではないか。

(委員)

- ・ この件についても事務局で確認いただければと思う。

> はい。

(委員)

- ・ 個別施設計画 29 ページでは「耐用年数が経過した段階で存続について検討します。」と記載されているが、耐用年数が経過した段階ではなく、耐用年数が経過する年度を

目安として存続について検討するのではないかと思います。先ほどの図書館のところでは「目安として」と記載されていたので、統一した方がよいのではないかと思います。

(委員)

- ・ パブリックコメントの回答にも影響するが、浅井歴史民俗資料館（セりん館等）に耐用年数はあるのか。古民家を移築しており、現代建築ではないと思うが、耐用年数とは何を指すのか。躯体のことではなく、茅の葺き替えの25年か。

(委員)

- ・ 茅の葺き替えのサイクルではないか。

(委員)

- ・ 個別施設計画25ページに耐用年数は25年とある。普通は建物の耐用年数のことだと思う。
- > 木造の耐用年数は25年としている。
- ・ 木造にも色々あって、古民家だと耐用年数という概念はないと思うので、「耐用年数が経過した段階で」と記載するのは少し違和感がある。
 - ・ 博物館・資料館について、全市的な施設を長浜城歴史博物館と（仮称）小谷城戦国体験ミュージアムと（仮称）観音文化の里ミュージアムの3館に集約とあるが、（仮称）小谷城戦国体験ミュージアムに関連している施設は、浅井歴史民俗資料館の他に何かあるか。
- > 小谷城戦国歴史資料館がある。
- ・ 今後の方向性に小谷城戦国歴史資料館について記載しないのか。
- > 小谷城戦国歴史資料館は、元々、児童館として建てられた施設を資料館に改修して使用しているため規模的にも小さい。また、小谷城史跡の中に建てられており、改築することが不可能な状況であることから、新しい施設ができれば廃止になるものと考えているため、記載していない。
- ・ 浅井歴史民俗資料館は、存続するかどうか検討課題であるが、小谷城戦国歴史資料館については、（仮称）小谷城戦国体験ミュージアムに移転させるということか。
- > 浅井歴史民俗資料館と小谷城戦国歴史資料館は、それぞれ浅井氏と小谷城の展示をしているため、新たな施設を整備して「展示」に関しては集約することを考えている。つまり、新たな施設ができれば、小谷城戦国歴史資料館は施設規模や立地条件を踏まえて廃止し、浅井歴史民俗資料館は、子どもたちの体験学習に特化した施設にしていきたい（展示は重複するので不要）と考えている。
- ・ 小谷城戦国体験ミュージアムという名称を聞くと既存の施設とは違う印象を持つが、「展示」に関して集約することで、そのようになるのか。
- > まだ場所や時期は明確に決まっていないが、既存の施設とは別の場所に整備する計画である。このことを長浜市歴史文化基本構想に記載している。
- ・ （仮称）観音文化の里ミュージアムは、既存の施設とは関係なく、新しい施設を整備するという事か。

> 既存の高月観音の里歴史民俗資料館を改築するか、別のところに整備するかはまだ決まっていないが、市として大事にしている観音文化を紹介する施設として、旧伊香郡地域の資料館として新たな施設を考えている。

- ・ 個別施設計画 28 ページに高月観音の里歴史民俗資料館について記載されていないのは、小谷城戦国歴史資料館と同様にいずれは廃止し、(仮称) 観音文化の里ミュージアムにするということか。

> そうである。

- ・ 先ほど指摘のあった「耐用年数が経過した段階で」という表現はこれでよいか。例えば、「耐用年数を勘案しながら」などといった表現に修正することも考えられると思う。

> 検討させていただく。

(委員)

- ・ パブリックコメントの市の考え方については、既に公表されているものか。

> 公表はまだであるが、庁内での調整は終えている。

- ・ パブリックコメントの意見の中で「民具や貴重な資料を浅井歴史民俗資料館に集約するという方法もあるのではないか」ということを活用方策として提案されている。この意見に対する市の考え方は不可能であると記載されている。不可能であるという表現は、すれ違っており、あまりにも冷たいのではないかと思う。パブリックコメントとして回答するのではあれば、もう少し丁寧な回答でもよいのではないか。

(委員)

- ・ 意見の提出者は、すべてを浅井歴史民俗資料館に集約とは言っておられないと思う。

(委員)

- ・ 収蔵を充実させて存続できるようにしてはどうかと尋ねられているのであって、この施設を拠点にしてほしいとは言っておられないと思う。

> 体験学習に使っていただける民俗資料の多くが浅井歴史民俗資料館に集まっているが、民具の一つひとつが大きいので、浅井歴史民俗資料館だけでは収蔵は不可能であると考えている。

- ・ 意見の提出者もそのような現状を知っておられると思う。多くの資料を活用できる場づくりというものを考えながら存続できないかと、一つの方策を提案されていると思う。市の考え方として不可能と言うのではなく、「集約することは難しいと考えているのでご理解ください」というように、表現を柔らかくして回答した方がよいのではないか。資料に記載されている回答では、切り捨てているように思えてしまう。

(委員)

- ・ 不可能という言葉がきつい。

> 検討させていただく。

(委員)

- ・ パブリックコメントに関連して、市の考え方に地域運営施設として、地域による自主的な運営とあるが、具体的にどういったことか。例えば、丸子船の館については、現在、指定管理者で運営されているが、将来的には地域の住民で運営していくということなのか。どのように読み取ればよいのか。

- ＞ 現在保有する多くの施設や文化財を市がすべて管理するのは困難であるということとは理解いただいていることかと思う。地域で大切にされてきた文化財を将来に繋いでいくため、地域の文化財は地域で守り活用いただくことを歴史文化基本構想において基本としている。丸子船の館は保存会がないが、他の施設では地域の文化財を守る保存会などがあり、運営をしていただいているところである。しかしながら、後継者がいないなど組織として弱ってきているのが現状であり、今後、自主的な運営を行っていただかないと持続させていくのが困難であると考えている。そのため、組織をつくることも大事なことであると考えている。また、各施設の入館者数の減少を踏まえると、条例に則して運営しているだけでは、有効活用を十分に図れないので、地域が文化財や施設をまちづくりに活かしていただきながら、後世に引き継げるようなシステムをつくっていききたいと考えている。地域のものは地域で守っていただけるよう、組織として自立いただき、地域の自主的な運営により文化財を残していきたいという思いである。

(委員)

- ・ 同感である。今の施設はいつまでもあるわけではないので、西浅井支所に集約した診療所のように施設を集約した方が将来的にはよいのではないかと思う。行政の支援に頼るのではなく、まちづくり委員会などの組織が主体とならないといけない。現状では、施設を地元以外の人のために開館しているように思う。地元のPRができておらず、盛り上がりが少ないことが残念だと思っている。

(委員)

- ・ 先日、つづらお荘の廃止について新聞に掲載されていた。個別施設計画39ページの今後の施設の具体的な方向性には「民営化に向け、施設の譲渡を最終目標として現指定管理者等と協議を進めます。」と記載されているが、つづらお荘は今後どうなるのか。
- ＞ 今後の対応策を早急に検討するため、廃止ではなく休止としている。施設のあり方や運営方針について、今後検討を重ねていく。

(委員)

- ・ 市民病院の西側にある下坂氏館跡の土地や建物が市に寄付されたと聞いたが、本計画には記載されないのか。
- ＞ 今回の見直し時点は平成30年度末としている。次回の改定時には記載していくことになる。

(委員)

- ・ 表現等について何点か指摘があったので、市として検討いただき、委員長と市で調整して確定するということによろしいか。

(各委員)

- ・ 異議なし

(委員)

- ・ 指摘があったところを調整する（検討した）という前提で公共施設等総合管理計画及び個別施設計画（最終案）について、本委員会として承認してよろしいか。

(各委員)

- ・ 異議なし

8 その他

- ・ 今後の予定について、事務局から説明

【質疑・意見など】

(委員)

- ・ 今年度で計画の改定は終わるが、来年度の委員会の予定はどうなるのか。進捗管理を行うのか。
- ＞ 来年度は、委員会を3回開催する予定をしており、計画の進捗管理等をお願いしたいと考えている。
- ・ みなさんしっかりと進捗管理をしていきたいと思う。

9 閉 会

- ・ 委員の異動について、事務局から連絡
- ・ 元村課長から閉会の挨拶